

自分の場所になる



「先生、ゴミならそのお菓子の箱の中に入ってるよ」
「もしかして拾ってくれたの？」
「児童クラブの時にね、Aちゃんと、Bちゃんと、
Cちゃんて拾った」
「ああ、ありがとう！たくさん拾ったね。こんなに
たくさん、どこに落ちてたの？」
「この緑（体育館前の植え込み）の中」
「この中に入って拾ってくれたの？そこには目がい
かなかったなあ！いやあ、ありがとう。助かったよ」

朝、校内の巡視をしていた時のやり取りです。

体育館前にいた私に、ある子が声をかけてくれました。私がゴミ拾いをしているのを見て、児童クラブの時間に集めてあったものを教えてくれたのです。しかも、このゴミは目につきにくい植え込みの中にありました。

もしかしたら、近くで遊んでいて見つけたのかもしれませんが。または、目についたゴミをきっかけに、どんどん拾おうという気持ちになったのかもしれませんが。いろいろなことが思いめぐらされますが、自分たちで進んで拾ったことは間違いがなさそうです。「ここにゴミがあったらやだな」と、子どもたちの中にそんな気持ちが芽生えたことでしょう。

「廊下に落ちているゴミを拾えた時、それは自分の場所になったという証拠だよ」

以前、友人に言われた言葉です。「転勤したばかりで学校に慣れるまでは大変だね」などという会話の中でこう言われたとき、確かにその通りだなと思いました。一方で、この言葉の意味や大事さは分かっているものの、なかなか実践できない時もあります。大人ばかりの職場の中では、廊下に落ちているティッシュやマスクを拾うことができませんでした。素手で触ることへの抵抗感と、ちょっとした恥ずかしさからです。まだ自分の場所とすることができていない、そう自戒しました。

子どもたちは純粋な気持ちでゴミを拾っていたことと思います。そして、その心根に自分の場所＝「わたしの学校」という気持ちがあるかと思うと、私はとてもうれしい気持ちになりました。東小学校を大事に思っていてくれるんだな、と。

きっと、大人の目の届かないところで、子どもたちのこういった姿が多くあることと思います。丁寧にそうじをしたり、物を大事に扱ったり。「わたしの学校」という気持ちがたくさん集まっている東小学校です。